

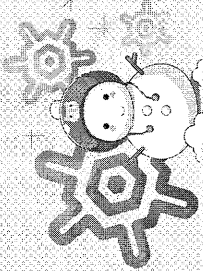
高田6区

商業まちづくりニュース

第三号

編集 福島大学
共生システム理工学類
地域計画研究室
会津美里町商工観光課

平成二十一年十二月四日、第三回「高田6区商業まちづくり推進計画」ワークショップを開催しました。推進計画は、高田6区に在住する住民が、地域の発展のために商業者と協力をし、次世代に残せるより良い町をつくることを目的としています。ここでは、特に多かった意見や印象的な意見などを紹介させていただきます。



【問1】これまでの意見を踏まえ、高田6区の空き店舗・空き地を活用するにはどうしたらよいですか？

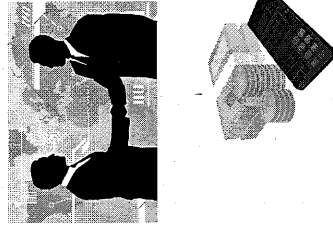
①第2回ワークショップで出された意見のうち「まちなか図書館(いらぬ本を持ち寄って利用する)、集会所、カルチャーセンター、児童館、コーヒーショップ、駄菓子屋、コンビニ、ギャラリー、チャレンジショップ、アンテナショップ、食堂、書店、特産品販売所、ゴミステーション」などのアイデアを参考に、どのように活用するのがよいでしょうか？

- ・まちなか図書館は、ポケットパークの裏、もしくは旧自転車店(建物や設備の修繕が必要)に設ける(旧パチンコ店は在庫保管場所として利用)
- ・集会所とカルチャーセンターは一つにまとめ、来年で閉店してしまう「きらり」の場所を活用する
- ・ポケットパークを利用して朝市(野菜以外も取り扱えるような)を開く
- ・レストラン、ラーメン屋、居酒屋などの飲食ができて人が集まれるような場所が欲しい
- ・腕の良いコックや若い経営者を雇う
- ・防犯上いいのでコンビニが欲しい



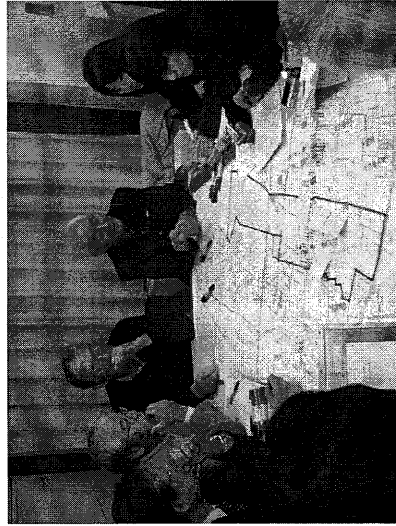
②空き店舗及び空き地利用に関して、こういった方法で、誰が所有者等に説明しますか？

- ・空き店舗を利用できるように交渉することは恐らく可能だが、空き地については、利用の仕方を工夫するなどの交渉が必要
- ・いきなりグループ交渉では相手が構えてしまう
- ・まずは区長さんや顔なじみの人やワークショップのメンバーが所有者に説明した後、使用料金や目的を提示して、グループや役場などが交渉に入る



③各個店ができることはなんですか？

- ・鍵の開閉、安全管理、物品管理、除雪など、様々な点で協力していく
- ・近くで働く人が、買い物や食事のついでに息抜きしていけるような店作りをする



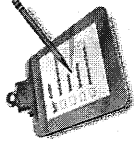
①や②であげられた意見を実現するには、利用・運営する立場の人と個店が協力し合い管理運営を行っていく必要があります。また、環境整備だけでなく店主の意識を変えていくことも重要ではないでしょうか。



【問2】若者の参加について、具体的にどうしますか？

若者と高齢者の役割分担を含めたイベントについてどういう方法で企画し、若者の組織設立や懇談会・PTA等の活用について、誰が誰にどう働きかけていくべきでしょうか？

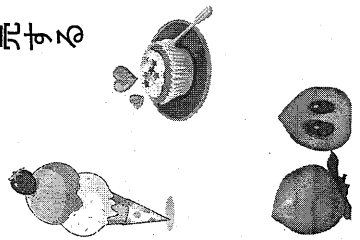
- ・プランターなどに花を植えると、子供たちが集まり、親も集まってくるのではない
- ・新たに設置を目標としているカルチャーセンターなどに対する意見を出し合う機会を設定する
- ・どこに誰がいるか分からない状況なので、区長さんに協力してもらい、若い人リストを作成する
- ・PTAや地区の学校に協力を求める
- ・高齢者と若者が一緒に参加出来るイベントを考案する



【問3】会津美里町の特産品を使った取り組みをしませんか？

(食の視点から) 特産品は、「会津本郷焼・会津人参・身不知柿・高田梅・ぶどう(ワイン)・つめこ焼き・高田せんべい」など、高田地区だけでなく会津美里町のものも含めています。

- ・高田梅 → アイスクリーム、ケーキ、梅漬、梅の煮物、梅エキス、梅酒、蕎麦に練りこむなど。梅酒を使った料理。梅酒のブランド化。高田梅の専門店を設ける。
- ・身不知柿 → 干し柿、焼酎、ワイン、シャーベットなど
- ・ボンせんべい(爆弾あられ)
- ・宇都宮の餃子や若松のソースカツ丼のように、特産品にこだわる必要はないのではないか
- ・高田産の果物の詰め合わせを特産品として販売する
- ・今ある特産品の加工法を工夫して売り出す
- ・あやめの葉を粉末状にして何か作りたい
- ・人参ラーメン、クコラーメン
- ・豆もち、しみもち

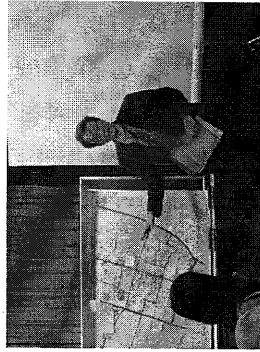


★編集後記★

今回は最後のワークショップということで、「これまでに出了た案を具体的にどうやって実行していくか」というところまで決めていくことが目標でした。各班で話し合い、利用目的や管理方法、交渉のための準備など、実現に向けて細かいところまで考えながら進めることが出来たように思います。

食の視点からも縁を大切にしていくためにも、郷土料理や特産品を味わえる場を設けることも重要です。福島大学だけでなく、会津短期大学や郡山女子大学などに入つてもらうと、「食」について学ぶ学生と一緒に新しい料理を作り出せる可能性もあります。

先生からは「6区は徹頭徹尾、地域住民のための商店街を目指すべき。若松とは違う」とのお話がありました。まずは地域の集会所を設けて、今回まで話し合った内容を含め、高田6区商店街を活性化していくために意見を出し合う場を設ける必要があります。今回で住民の集まる場が最後となつてしまわないように、これからも継続して6区の意思を統一できるよう活動していってほしいと思います。(江坂)



ご意見・ご質問などございましたら
下記の連絡先までお気軽にご連絡ください。

960-1296 福島市金谷川1番地
福島大学 共生システム理工学類
地域計画研究室
e-mail : s0710171@ipc.fukushima-u.ac.jp
TEL : 024 - 548 - 5276

会津美里町商工観光課
e-mail : shokan@town.aizumisato.fukushima.jp
TEL : 0242 - 56 - 4914

